

講演資料

演題 1

令和8年度主要施策について

講師 千葉県農林水産部畜産課

企画経営室 副主幹 有路 優子 様

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター



令和 8 年度 第 1 回畜産研修会

「令和 8 年度主要施策について」

千葉県農林水産部畜産課
企画経営室

【畜産の振興について】

畜産産出額：1,464 億円(令和 6 年)
(全国第 5 位)

現状と課題

【酪農】



産出額：269 億円
(全国第 5 位)

- 飼養戸数及び生乳生産量の減少
 - ・戸数：488 戸 (R3) → 342 戸 (R7)
 - ・生乳生産量：193,486t (R3) → 188,488t (R7)
- 飼料価格の高騰
 - ・配合飼料価格(指数)：令和 2 年(100)⇒令和 8 年 1 月(142.2)
- 収益性は改善途上
 - ・生産コストは依然として高い：884 千円/頭(R3)→1,009 千円/頭(R6)
 - ・生乳取引価格は段階的に引き上げ：103.6 円(R3)→122.7 円(R6)
- 労働の周年拘束性が高い
 - ・酪農の 1 人当たり年間労働時間は 2,261 時間 (R5)
(肉用牛：1,806 時間、養豚：1,694 時間)

【肉用牛】



産出額：134 億円
(全国第 18 位)

- 和牛の生産基盤がぜい弱
 - ・繁殖和牛頭数 (R7)
千葉県：2,200 頭 (全国平均：13,009 頭)
- 和牛去勢の上物率※の全国平均との差が縮まる
 - ・千葉県：81.9%、全国平均：90.6% (R5) ※和牛去勢のうち
→ 千葉県：93.2%、全国平均：94.6% (R7) A4・A5 の割合

【養豚】



産出額：568 億円
(全国第 4 位)

- 大規模化の進展
 - ・1 戸当たり飼養頭数：2,459 頭 (R3) → 2,688 頭 (R6)
- 豚熱の発生
 - ・H30 年に国内で 26 年ぶりに発生、以降 24 都県に拡大し、令和 7 年 3 月には県内でも発生
- 慢性的な家畜伝染病による生産性低下
 - ・豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS) が浸潤

【養鶏】



産出額
鶏卵：397 億円
(全国第 1 位)
ブロイラー：53 億円
(全国第 15 位)

- 企業化の進展
 - ・1 戸当たり成鶏めす飼養羽数：
94.8 千羽 (R3) → 127.1 千羽 (R6)
- 高病原性鳥インフルエンザの発生
 - ・発生状況(シーズン) ※ R7 はウズラ 109 千羽を含む
R2：11 事例、4,576 千羽 R3：3 事例、66 千羽
R4：6 事例、629 千羽 R5：1 事例、57 千羽
R6：16 事例、3,356 千羽 R7：2 事例、190 千羽※

具体的な対策

畜産課

生産性の向上

- ・管理技術の改善指導による乳量アップ
- ・遺伝的能力評価や牛群検定データの活用による乳牛の能力向上と経営改善
- ・暑熱対策の実証及び研修会の開催により更なる対策を推進

県産飼料の生産拡大

- ・機械導入支援による生産面積の拡大、単位面積当たりの収量向上等を推進
- ・飼料生産技術の向上による収量の増加

酪農情勢への理解・消費拡大

- ・「おいしい牛乳をありがとう絵手紙コンクール」などイベントの実施
- ・ホームページ等での情報発信（不需要期の消費喚起、牛乳料理レシピの紹介等）

労働環境の改善

- ・省力化機械などスマート技術の導入により労働時間の短縮を推進
- ・酪農ヘルパー・コントラクター・育成牧場等の活用による作業の外部化

生産基盤の強化

- ・受精卵の活用等による繁殖雌牛の増頭および更新を支援
- ・生産性向上のため、暑熱対策の実証やスマート農業技術の導入を支援

ブランド力向上（肉質の向上）

- ・遺伝的能力評価による、優良な繁殖雌牛の早期選抜を支援
- ・脂肪の質の能力が高い雌牛の保留や牛肉の脂肪の質の分析を支援
- ・県産肉牛の品質向上に向けた肥育技術の指導強化

県産豚肉・鶏卵の認知度向上と需要の拡大

- ・関係団体、量販店、レストラン等と連携し、県産豚肉のPR活動を推進
- ・県産鶏卵の輸出拡大の取組を推進

家畜防疫体制の強化

【体制強化】

- ・迅速かつ的確な防疫措置の実施に向けた民間事業者育成
- ・獣医系大学生に対する修学資金の貸付による産業動物獣医師の確保

【発生予防】

- ・全ての畜産経営に対し飼養衛生管理基準遵守のための指導を実施
- ・鶏舎入気口フィルターや野鳥忌避レーザーなど効果が見込まれる対策の導入推進
- ・登録飼養衛生管理者等による豚熱ワクチンの打ち手確保と適期での接種の実施
- ・野生イノシシや野鳥のウイルスのモニタリングを実施

【まん延防止】

- ・大規模農場や連続的な発生に備えた防疫資・機材の備蓄強化
- ・埋却地や焼却施設の確保、レンダリング処理に向けた課題解決

酪農に係る生産振興対策

【現状】

- 飼養戸数・頭数・生乳生産量ともに令和3年と比較して減少、1頭当たりの年間平均乳量は微増で推移。

飼養戸数	488戸	(R3)	→	342戸	(R7)
飼養頭数	27,700頭	(R3)	→	25,200頭	(R7)
生乳生産量	193,486t	(R3)	→	185,151t	(R6)
平均乳量	9,337kg/年	(R3)	→	9,437kg/年	(R6)
- 他の部門に比べて長い労働時間（1人当たりの年間労働時間）（R5）
酪農：2,261時間/年（肉用牛：1,806時間/年、養豚：1,694時間/年）
- 近年の生乳需給の緩和を受けて国庫事業で実施されていた乳牛の増頭制限は、令和8年度から撤廃されるが、生乳需給の安定には、引き続き計画的かつ需要に応じた生乳生産が必要。

【課題】

生乳需給と経営の持続可能性を考慮した生産基盤の維持・強化を図るため、生産性向上、労働環境の改善が求められている。

- 生産性の向上
 - 1頭当たりの乳量の増加～飼養管理技術と遺伝的能力の向上～
 - 長命連産性及び生涯生産性の向上
- 労働環境の改善
 - 労働負担の軽減、省力化～省力化・外部化によるゆとりのある経営への転換～

【対策】

生産性の向上

- 乳牛改良促進事業（県単）
 - 牛群検定活用による遺伝的能力向上・飼養技術改善
- 乳用牛ゲノム分析推進事業（県単）
 - ゲノム分析の実施による高能力牛の選定
- 乳用牛受精卵供給事業（県単）
 - 受精卵の活用による能力の高い後継牛の作出
- ちばの酪農長命連産性向上支援事業（県単）
 - 牛群の長命連産性等の向上
- ちばの元気いっぱい乳牛指導事業（県単）
 - 飼養管理改善による生涯生産性の向上
- ちばの畜産暑熱対策推進事業（新規・県単）
 - 屋根裏への遮熱シート施工など暑熱対策の実証等により更なる対策の推進
- 生乳暑熱対応推進緊急対策（国庫）
 - 資材や機器の導入、夏季受精卵移植への奨励金

労働環境の改善

- ちばの酪農ワークスタイル変革推進事業（県単）
 - 傷病時のヘルパー利用支援
- 乳牛受託事業（県単）
 - 県乳牛育成牧場での乳用子牛の受託育成
- 県産飼料自給体制整備事業（県単）
 - 県産飼料生産面積の拡大推進（コントラクター等による飼料収穫調製作業の外部化）
- ICT化等機械装置等導入事業及び酪農経営支援総合対策事業のうち酪農労働省力化対策事業（国庫）
 - 労働負担軽減や省力化を目的とした機械導入及び施設整備支援

●スマート畜産推進事業（県単）

・発情発見システムなどスマート農業技術の導入により、生産性の向上や労働時間の短縮

●酪農経営支援総合対策事業のうち中小酪農等対策事業（国庫）

・後継牛確保のための環境整備（機器導入、つなぎ牛舎の改良）、飼養環境の改善、事故率低減支援等

●畜産クラスター事業（国庫）

・収益性や持続性向上のための施設や機械の整備等

県農林水産業振興計画の成果目標及び達成指標

- 経産牛1頭当たりの乳量 9,437kg (R6) ⇒ 9,644kg (R11)
- 牛群改良に取り組む農家割合 30.7% (R6) ⇒ 36.8% (R11)

肉用牛に係る生産振興対策

【現状】

- ・繁殖雌牛の頭数は横ばいで推移していたが、令和6年度から減少
千葉県繁殖雌牛の頭数順位は30位と生産基盤は弱い
○繁殖雌牛頭数 全国 632,800頭 (R3) → 611,400頭 (R7)
千葉県 2,600頭 (R3) → 2,200頭 (R7) ※全国平均 13,009頭 (R7)

- ・全国平均に比べ、黒毛和種における繁殖雌牛の平均分娩間隔が長い
○平均分娩間隔 (R6) 全国 405.5日 千葉県 426.7日

- ・和牛の上物率は年々上昇し、全国平均との差が縮まっている

上物率 (%)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
全国	85.4	87.6	89.7	90.7	92.9	94.6
千葉県	78.6	84.1	84.1	81.9	90.9	93.2

(出典 (公社) 日本食肉格付協会 格付情報より)

- ・産地としての地位向上を目指し、全国和牛能力共進会 (R9) の出品対策に取り組む

○種牛の部 : 初出品

○肉牛の部 : 3回目【前回: **優等賞20席(1頭)**、**1等賞(1頭)**】

(脂肪の質: 出品牛平均 56.1% 千葉県平均 51.2%)

※脂肪の質が枝肉評価の指標の一つとなっており、本県出品牛にはオレイン酸などのおいしさに関連する一価不飽和脂肪酸の含有率が低かった。

【課題】

和牛生産は優秀な繁殖和牛や肥育素牛を確保することが重要であり、和牛産地として基盤を強化するためには県内繁殖和牛の改良及び増頭を図るとともに飼養管理・肥育技術の向上が必要となっている。

① 和牛生産基盤の強化

- ・繁殖雌牛の増頭及び更新
- ・飼養管理技術の向上、飼養環境の改善
- ・繁殖成績の向上

② ブランド力向上 (肉質の向上)

- ・繁殖雌牛の肉質に係る遺伝的能力向上
- ・肥育技術の向上
- ・脂肪の質の改善

【対策】

生産基盤の強化

●肉用牛ブランド力向上対策事業 (県単)

①受精卵活用増頭推進事業

- ・和牛受精卵を移植し和牛子牛を生産する取組を支援

②高能力牛の増殖促進事業

- ・優秀と判明した雌牛から受精卵を作成し改良スピードの向上を図る取組を支援

●ちばの畜産暑熱対策推進事業 (新規・県単)

- ・換気方式の変更など暑熱対策の実証等により飼養環境の改善に向けた取組を推進

●スマート畜産推進事業 (県単)

- ・行動監視システムなどスマート農業技術の導入により、生産性の向上や労働時間の短縮

●畜産クラスター事業 (国庫)

- ・収益性や持続性向上のための施設や機械の整備
- ・繁殖雌牛更新の取組に対する支援

●全国和牛能力共進会出品対策事業 (県単)

全国和牛能力共進会の出品に向けて飼養管理および肥育技術の向上を支援する

肉質の向上

●肉用牛ブランド力向上対策事業 (県単)

①ゲノミック評価の実施

- ・遺伝子検査により優秀な繁殖雌牛を早期に選抜

②「脂肪の質」レベルアップ事業

- ・脂肪の質の遺伝的能力の高い雌牛を繁殖用に保留する取組を支援

③牛肉の脂肪の質分析事業

- ・おいしさの指標である牛肉の脂肪の質を分析する取組を支援

④肥育技術向上対策事業

- ・肥育牛の血液検査及び枝肉成績のデータを活用した肥育技術の指導による肉質向上

県農林水産業振興計画の成果目標及び達成指標

- 遺伝的能力が判明している繁殖和牛頭数の累計 2,055頭(R6) ⇒ 3,250頭(R11)
- 優良な繁殖和牛の割合 25.1% (R6) ⇒ 30% (R11)

【新規】「ちばの畜産暑熱対策推進事業」について

予算額 20,000 千円 (R8 新規)

1 事業目的

夏季の猛暑により家畜の生産性が低下していることを踏まえ、県内の畜産農家がより効果的な暑熱対策を実施できるよう、本県ではまだ普及が進んでいない対策について、畜産農家と連携してモデル実証を行うとともに、実証結果を踏まえた技術研修会を行う。

2 事業内容

(1) 暑熱対策実証事業

[補助対象] 遮熱シート、牛体散水システム、冷風機等の導入

[補助要件] 検証に必要なデータの収集に協力すること

収集したデータを県機関に対して提供することに同意すること

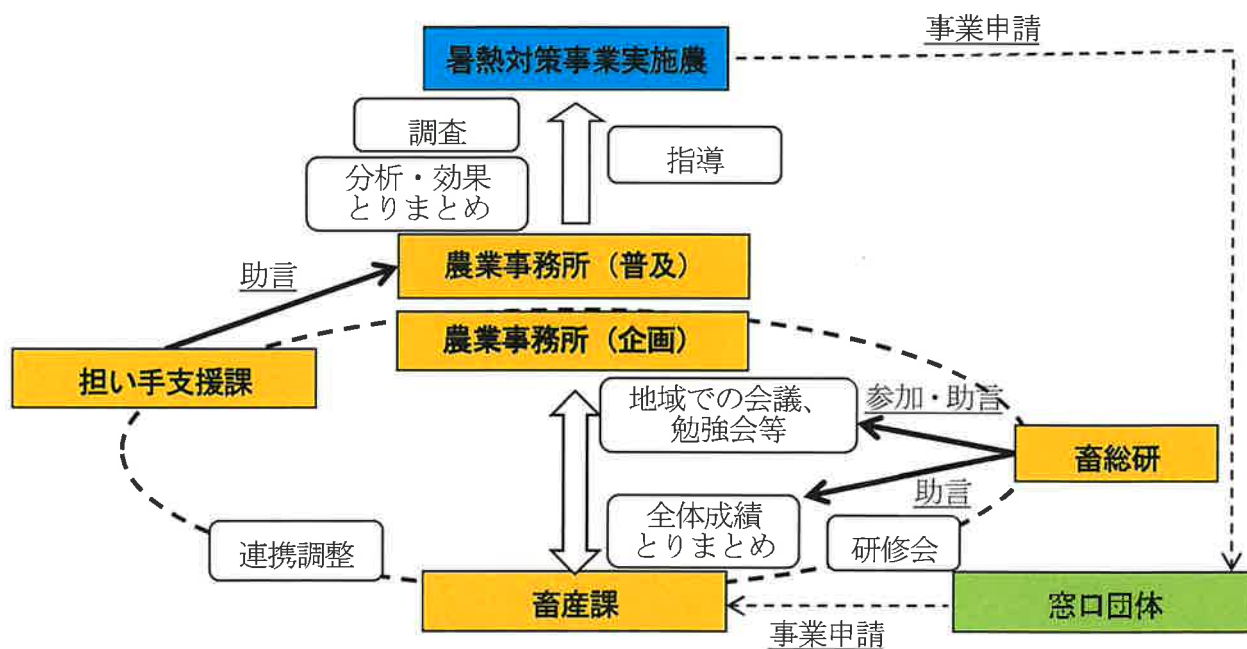
技術研修会の開催（データの開示等）に協力すること

[補助率] 1/2 以内

(2) 技術研修会の開催

畜産農家や関係機関・団体等を参集した研修会を開催し、実証事業の検証結果の共有や対策を実施した農家から効果の説明等を行うことで、更なる暑熱対策を推進する。

3 事業推進の体制図



4 事業スケジュール

- (1) 推進会議の開催（畜産課）…………… 4月27日
- (2) 需用費、備品購入費令達（畜産課）…………… 4月下旬
- (3) 暑熱対策調査手技に係る研修会…………… 5月
- (4) 調査票の作成、共有…………… 5月～6月
- (5) 事業の実施（施工、設置）…………… 5月～8月
- (6) 効果検証（農業事務所）…………… 8月～9月
- (7) 研修会の開催…………… 10月～11月

5 農業事務所へお願いしたいこと

- (1) 調査票の作成（様式検討中）最低2回の効果検証調査（※）
- (2) 施工スケジュールの共有（畜産課）
- (3) 写真の撮影（施工前後）

※県酪連経由で、調査に係る協力の依頼はしてあります。

6 事業実施予定件数

地域	酪農	肉用牛	養豚	採卵鶏	合計
千葉	1	0	0	1	2
東葛飾	0	0	1	0	1
印旛	1	0	1	0	2
香取	3	0	0	0	3
海匝	2	1	2	1	※6
山武	1	0	0	0	1
長生	0	0	0	0	0
夷隅	1	0	0	0	1
安房	0	1	0	0	1
君津	2	0	0	1	※3
合計	11	2	4	3	20

※海匝、君津地域については、一部畜産課で調査を予定

千葉県農林水産業振興計画【概要】

計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

近年、国内人口の減少や物価高騰、地球温暖化の進行、世界の食料需給の変動など、農林水産業を取り巻く様々な情勢の変化を踏まえた持続可能な農林水産業の振興が求められており、国では、これらの情勢の変化を踏まえ、食料・農業・農村基本法が見直され、令和6年に改正法が成立しました。

本県は、温暖な気候と首都圏に位置する恵まれた立地条件や農林漁業者の高い技術に支えられた全国屈指の農林水産県です。本県においても、国の政策動向を注視しつつ、実効性のある振興施策の実施により、農林漁業者の所得向上と農山漁村の活性化を図ることを目的として、新たな農林水産業振興計画を策定します。

2 計画の性格

本計画は、千葉県総合計画を上位計画とし、本県農林水産業における10年後の目指す姿を示すとともに、その実現に向けた具体的な取組を定めます。

3 計画期間

令和8年度から令和11年度まで（4年間）

本県農林水産業をめぐる情勢

- 農林漁業者の減少
- 環境変動(温暖化等)
- スマート技術の進展
- 耕地面積の減少
- 食料安全保障の確保
- 成田空港の拡張事業
- 生産コストの上昇
- 消費行動の変化
- 広域道路ネットワークの充実

【この先10年を見据えた中での課題】

- ① 農林漁業者が減少する中においても産業としての機能を維持・発展させるための体制構築
- ② 農山漁村の活性化を図るため、地域の農林水産業に多様な人材が関わる機会の創出や地域資源の活用による地域ぐるみでの取組推進
- ③ 温暖化の進行や頻発する大規模自然災害、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜疾病など、農林水産業の持続性を脅かすリスクへの対応

基本方針

1 目指す姿

千葉県総合計画では、「～千葉の未来をともに創る～ 県民を守り、支え、そして飛躍する千葉の実現」を基本理念に掲げ、おおむね10年後を見据えて本県が目指す姿を示しています。本計画では、この目指す姿の実現に向け各種施策を展開し、農林漁業者の所得向上を図ります。

2 基本目標 **稼げる農林水産業の実現と農山漁村の活性化**

3 構成のポイント

- ① 農林水産業を維持・発展させるための「ひとづくり」「ものづくり」を重点化
- ② 地域資源をフル活用した**農山漁村の活性化**の推進
- ③ 頻発する災害や家畜伝染病等への危機管理体制の更なる強化

4 数値目標

目標項目	現状値	目標値
農 業 産 出 額	4,079億円 (R4-6 平均)	4,200億円(R11)
県 内 漁 港 水 揚 金 額	450億円 (R2-4 平均)	450億円(R11)
農業・漁業生産関連事業の年間販売金額	790億円 (R元-5平均)	860億円(R11)
農業経営体当たりの生産農業所得	401万円 (R2-6 平均)	520万円(R11)
漁業経営体当たりの漁業所得	514万円 (R元-5平均)	540万円(R11)

基本施策（主な取組）

I 次世代を担う人材の確保・育成

- ◆ 農林水産業所得の向上と労働力の確保に向け、生産者の経営管理能力の向上等を支援し、千葉県農林水産業をけん引する経営体を育成
- ◆ 新規就農者・林業就業者・漁業就業者の確保から定着までの体系的な支援や企業による農林水産業への参入を促進
- ◆ 地域農業を支える集落営農組織の育成や中小規模農家の経営支援

II 農林水産業の成長力の強化

- ◆ 革新的な技術導入やそれに対応した基盤整備の推進等によるスマート農林水産業の加速化
- ◆ 共同利用施設の整備等による産地の生産流通体制の充実・強化
- ◆ ぼ場の大区画化・団地化等による生産性向上と農業用排水施設の機能保全対策による持続的な農業の実現
- ◆ 「地域計画」に基づく担い手への農地の集積・集約化と、農地の有効利用に向けた荒廃農地対策
- ◆ 県産飼料の安定確保や高能力な家畜の導入、作業の外部化等による畜産経営の体質強化
- ◆ 持続的な水産業に向けた水産資源管理の着実な実施や流通機能の強化による価格形成力の向上、漁港施設の整備・長寿命化などの取組を推進
- ◆ 農林水産物の安全と消費者の信頼を確保するための取組を推進
- ◆ 有機農業や薬場の保全など環境負荷低減の取組や耕畜連携による資源循環型農業、環境変動に適應する取組を推進
- ◆ 森林整備の促進や森林環境譲与税の活用による森林資源の循環を推進
- ◆ 農林水産業の成長産業化を目指した試験研究を推進

III 需要を捉えた販売力の強化と輸出促進

- ◆ 市場動向を捉えた産地体制の強化
- ◆ 「千葉県の顔」となる品目を核としたブランディング強化と多様な販売チャネルの開拓
- ◆ 県オリジナル品種をはじめとした特徴ある製品の認知度向上や料理を通じた県産農林水産物の魅力発信を展開
- ◆ 地産地消や食育の推進、地域資源を活用した商品開発や販路開拓を支援
- ◆ 輸出に係る生産・流通・販売の各段階における支援、成田市場・成田空港を活用した県産農林水産物の輸出促進

IV 地域の特色を生かした農山漁村の活性化

- ◆ 都市と農山漁村の交流促進により関係人口の拡大を図り、農山漁村を支える活力の創出を促進
- ◆ 農山漁村がもつ多面的機能を維持・発揮するための体制を強化
- ◆ 関係者が一体となった有害鳥獣対策の展開と「房総ジビエ」の普及・利用拡大
- ◆ 海業の推進等、地域資源（もの・ひと）を活用した所得向上等と地域の活性化

V 災害等への危機管理の強化

- ◆ セーフティネットの加入促進や事業継続計画(BCP)の策定推進により経営リスクを軽減
- ◆ 飼養衛生管理基準の遵守徹底等による家畜防疫体制や、発生予防と効果的な防除による病虫害・雑草対策の強化
- ◆ 農林水産業関連施設・インフラや森林の整備、農山漁村の防災・減災対策による自然災害リスクへの対応
- ◆ 災害発生時に迅速な対応を行うための危機管理体制の強化

部門別戦略

基本目標の達成に向け、4年間の計画期間内に効果的かつ集中的に展開する施策を、園芸、農産、畜産、森林・林業、水産の5部門において「戦略」として打ち出し、着実な推進を図ります。

畜産部門戦略

～生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現～

現状と課題

- ◆【酪農】労働負担が大きい、生乳消費の低迷 ⇒ 省力化を推進するスマート農業技術の導入、規模拡大から収益性を向上する取組への転換が必要
- ◆【肉用牛】和牛の生産基盤が弱い、産地としての認知度が低い ⇒ 和牛産地として更なる生産基盤の強化、選ばれる牛肉の生産が必要
- ◆【養豚・養鶏】高病原性鳥インフルエンザ等の伝染病が頻発、規模拡大に伴い労働力が不足 ⇒ 防疫体制の強化、スマート農業技術の導入が必要
- ◆【飼料・環境】輸入飼料への依存、畜産密集地域に家畜ふん堆肥が偏在による需給ギャップ ⇒ 県産飼料の生産・利用の拡大、耕畜連携の推進が必要
- ◆【販売】県産畜産物の認知度が低い ⇒ 消費拡大に向けた取組・体制の強化が必要

主な取組

1 酪農

- (1) スマート農業技術や外部支援組織等の活用による生産の効率化・担い手の確保
- ・哺乳ロボットや発情発見システムの導入を支援
 - ・酪農ヘルパーの活用を促進
 - ・県育成牧場の機能強化による利便性の向上
 - ・後継者の育成や経営資産の有効活用を推進
- (2) 1頭当たりの生涯生産性の向上
- ・遺伝情報や牛群検定の活用による、乳牛の改良を推進
 - ・気候変動に対応した飼養管理指導や管理技術の研究

2 肉用牛

- (1) 先端技術の活用等による生産性の向上
- ・発情発見システム等の繁殖成績を向上するスマート農業技術の導入を支援
 - ・受精卵の地域内流通、酪農経営と肉牛経営が連携した和牛生産を推進
 - ・肥育期間を短縮する技術指導の実施
- (2) 選ばれる牛肉の生産
- ・遺伝情報を活用した、繁殖和牛の遺伝的能力の改良及び優良な後継牛確保を支援
 - ・脂肪の質を向上させる取組を支援
 - ・規模拡大による安定した生産量の確保

3 養豚・養鶏

- (1) 家畜疾病の発生予防
- ・高病原性鳥インフルエンザや豚熱の発生防止に効果的な取組を推進
 - ・豚熱ワクチンの適期での確実な接種と野生イノシシの抗体保有状況調査を実施
- (2) 家畜疾病のまん延防止
- ・民間事業者を活用した防疫措置体制の強化
 - ・大規模農場や連続的な発生に備えた必要資機材の備蓄を強化
 - ・農場の分割管理を推進
 - ・市町村と連携した焼却施設等の確保
- (3) スマート農業技術等の活用による飼養管理の効率化
- ・畜舎洗浄ロボットや体重推定システム等の導入を支援

4 飼料・環境

- (1) 県産飼料の生産・利用拡大
- ・飼料生産に必要な機械等の整備や技術指導、コントラクター等の育成を推進
 - ・未利用資源等を有効活用するための研究
- (2) 環境負荷低減に向けた取組の推進
- ・耕種農家と畜産農家が連携し、飼料作物と家畜ふん堆肥を循環させる耕畜連携を強化
 - ・堆肥の地域内循環を基本としつつ広域流通も推進

5 販売

- (1) 県産畜産物の消費拡大
- ・関係団体、量販店、レストラン等と連携した、県産の牛乳・乳製品や豚肉加工品のプロモーション、県産牛肉・豚肉・鶏卵等のPR活動を推進
- (2) 流通の合理化・輸出の拡大
- ・高度な衛生水準や輸出にも対応可能な食肉センターの再編整備に向けた取組を推進
 - ・県産鶏卵の輸出拡大に向けた取組を推進
- (3) 特色のある畜産物の生産・開発
- ・おいしさなどの評価手法の開発
 - ・『日本酪農発祥の地』等の地域資源を生かした付加価値の創出

目指す姿

- ◆ 生産性の向上と県産飼料の生産・利用が進み、収益性の高い畜産経営が実現している。
- ◆ 耕畜連携の進展や飼養管理の省力化、家畜疾病対策の強化が図られ、持続可能な経営が展開されている。
- ◆ 多様な販路が確保され、県産畜産物の認知度が向上し、需要が拡大している。

数値目標

◎ 畜産産出額

【令和11年】1,500億円

〔現状値 1,397億円

(令和4～6年平均)〕

千葉県酪農・肉用牛生産近代化計画の概要

計画の位置付け

酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律（昭和29年法律第182号）に基づく法定計画（5年毎に見直し）。今後の酪農及び肉用牛生産の健全な発展、牛乳・乳製品、牛肉の安定的な供給に向けた取組や施策の方向を示すもの。国の「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」や県内酪農・肉用牛生産の現状を踏まえ、第9次県計画を策定する。

《酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律 第2条の3 抜粋》

- 都道府県知事は、政令で定めるところにより、当該都道府県における酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための計画を作成することができる。
- その内容は、基本方針の内容と調和するものでなければならない。

国の基本方針（令和7年4月策定）

《状況の変化》

- 生乳や牛肉の需給緩和による脱脂粉乳の在庫の増加、枝肉・子牛価格の低下
- 飼料費を始めとした生産コストの上昇・高止まり
- 環境や持続性に配慮した畜産物生産の必要性の高まり

《目指す方向性》

- 需要拡大への取組と需要に応じた生産の推進による需給ギャップの解消
- 従来の生産手法の見直しを含む、生産コストの低減・生産性の向上
- 国産飼料の生産・利用の拡大を通じた輸入飼料依存度の低減
- 環境負荷低減などの取組の推進

《生産数量の目標》

- 国全体の令和12年度の目標としては現状生産量並みの数量を設定。その上で、長期的な姿として、需要拡大や輸出拡大の進展に応じ、生乳は前回方針並み、牛肉は現状をやや上回る水準を設定。

（関東地域の目標）

生乳生産量 R5年度 117万トﾝ → R12年度 107~114万トﾝ（全国 732→732）
乳用牛頭数 R5年度 17.8万頭 → R12年度 14.3~15.1万頭（全国133.5→117.3）
肉用牛頭数 R5年度 30.7万頭 → R12年度 30.6~33.9万頭（全国267.9→275.3）

千葉県の現状

- 千葉県の畜産は農業生産の主要部門となっており、畜産産出額に占める割合は、乳用牛約17%（254億円）、肉用牛約8%（123億円）。特に乳用牛では、全国有数の酪農県としての地位を維持し、首都圏の主要な生乳供給地として重要な役割を担っている。
- 一方で、担い手の高齢化や施設の老朽化、資材・エネルギー価格等の高騰を背景として農家戸数が減少し、生産基盤の維持・強化が課題となっている。

生乳生産量 H30年度 200,886トﾝ → R5年度 185,633トﾝ
乳用牛頭数 H30年度 29,850頭（586戸） → R5年度 26,100頭（383戸）
肉用牛頭数 H30年度 38,850頭（249戸） → R5年度 42,300頭（228戸）

県計画の概要

計画期間：令和8年度～12年度

I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

- スマート農業技術やデータ活用（牛群検定・遺伝的能力評価等）、暑熱対策、労働力の外部化（ヘルパー、コントラクター等）による生産性の向上と経営の効率化
- 飼養管理技術の向上や、長命連産性に優れた乳用牛群への転換等による生涯生産性向上
- 優良な繁殖和牛の確保や肥育技術の向上による品質の高い牛肉の安定生産
- 耕畜連携等による県産飼料の生産・利用拡大 等

➡ 持続可能な酪農、肉用牛生産の実現

II 生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標

	現在（R5年度）	目標（R12年度）
生乳生産量	185,633トﾝ	180,870トﾝ
乳用牛頭数	26,100頭	23,630頭
肉用牛頭数	42,300頭	44,170頭

III 近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標

- 持続的な経営を実現するモデルとして、酪農で2つ、肉用牛（繁殖・肥育・一貫）で3つの経営類型を示す。
（酪農）経産牛50頭・つなぎ飼い、経産牛150頭・フリーストール等
（肉用牛）繁殖30頭、肥育150頭、一貫320頭（繁殖60頭・肥育260頭）

IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項

- 規模拡大あるいは経営規模の維持について、生産効率の改善や収益性の向上など経営規模に見合った取組を推進する。

V 飼料の自給度の向上に関する事項

- 耕畜連携や二期作・二毛作の推進、飼料生産組織の育成等により、飼料作物の生産量を拡大するとともに、スマート農業技術の活用により生産性の向上や省力化を図る。

	現在（R5年度）	目標（R12年度）
粗飼料作付面積	3,746ha	3,800ha
粗飼料生産量	22,985TDNトﾝ	25,000TDNトﾝ

VI 集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する事項

- 集送乳、乳業施設、家畜市場については、現状の機能を維持しつつ、効率化等に向けた取組を推進する。
- 食肉流通の合理化を図るため、高度な衛生水準や輸出にも対応可能な食肉センターの再編整備に向けた取組を推進する。

VII その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

- 畜産総合研究センターにおいて、試験研究のさらなる充実と効率化を推進し、試験研究機関としての機能強化を図る。

千葉県畜産総合研究センターの概要、業務集約の方向性

設置目的

安全で高品質な畜産物を効率的に生産するため、先端技術等を活用して畜産農家が求める生産性の高い革新的な技術を創造するとともに、地域資源の循環利用を中心とした環境にやさしい畜産技術の開発を行うことを目的として設置

組織体制

千葉県畜産総合研究センター本所（八街市）

- 総務課
- 企画環境研究室
- 乳牛肉牛研究室
- 養豚養鶏研究室
- 市原乳牛研究所（市原市）
- 嶺岡乳牛研究所（南房総市）



業務の集約

市原
～育成牧場の運営に特化～

現行	再編後
育成牧場	育成牧場
乳生	
飼料	

本所
～分野横断的な研究体制の構築～

現行	再編後
乳牛	乳牛(集約)
肉牛	肉牛
養豚	養豚
養鶏	養鶏
経営	経営
環境	環境
飼料	飼料(集約) 災害支援

嶺岡
～牛の改良拠点として特化～

現行	再編後
乳牛の改良	乳牛の改良
飼料	黒毛和種の改良 災害支援

乳牛の飼養管理技術の研究 優良種豚の造成

放牧育成 飼料作物の気候変動試験の実施

今後の方向性

- ・ 限られた人員を集約し分野横断的な研究体制を構築
- ・ 黒毛和種を含めた高品質な牛受精卵の作出・供給体制を構築
- ・ 受精卵移植技術者の人材育成体制を強化

千葉県畜産総合研究センターの機能強化に向けた基本構想（試験研究の方向性）

基本的な方向性

生産性向上やコスト低減等による収益性の高い畜産経営の実現や持続可能な畜産物生産への取組を推進するため、育種改良による能力の高い家畜の作出や、デジタル技術の活用による効率的な生産システムの開発・実証、耕畜連携による循環型農業の推進などの現場の課題にスピード感をもって対応できるよう畜産総合研究センターの機能を強化する。

本県畜産の現状と課題

1 生産コストの増加

- 飼料・資材価格の高騰
- 輸入飼料への依存大

[課題] ●コスト低減 ●国産飼料の生産拡大

2 生産規模の二極化の進展

- 県南地域における規模拡大の限界
- 労働力不足

[課題] ●生産性の向上 ●効率的な管理

3 県産畜産物の認知度が低い

- 主に日常使いとして消費されている
- 全国的に知られているブランドが無い

[課題] ●特色ある畜産物の生産

4 生産環境の変化

- みどりの食料システム戦略
- 温暖化や家畜疾病など環境の変化
- アニマルウェルフェアの世界的な広がり

[課題] ●耕畜連携の推進
●気候変動への対応

畜産総合研究センターの現状と課題

1 研究環境の変化

- 生産者が抱える課題の複雑化や高度化
- 施設の老朽化・設備の旧式化

[課題] ●生産現場における課題の抽出
●効率的な研究体制の検討
●畜舎の再整備の検討

2 畜産農家等への貢献

- 生産者ニーズの変化

[課題] ●生産者ニーズとの乖離

試験研究の方向性と具体的な取組

生産コスト低減

国産飼料の生産拡大

生産性の向上

特色のある畜産物の生産

1 収益性の高い畜産経営の実現に向けた研究の推進

- (1) 低コスト化のための飼料給与技術の開発・実証
●栄養バランスの最適化技術
- (2) 輸入飼料に過度に依存しない飼料生産利用技術の開発
●高収量と高品質な飼料作物の生産技術
- (3) 生産性向上に向けた育種改良と飼養管理技術の開発・実証
●ゲノミック評価やデジタル技術の活用
- (4) 特色ある畜産物の生産技術の開発・調査
●おいしさなどの評価手法技術

耕畜連携の推進

効率的な管理

気候変動等への対応

2 持続可能な畜産物生産を目指した研究の推進

- (1) 地域と共存する畜産経営の実現に向けた研究
●家畜排せつ物の管理技術と循環型飼料生産技術の開発
- (2) データ活用等による効率的な飼養管理技術の研究
●デジタル技術や自動機械を活用した省力管理技術の開発・実証
- (3) 気候変動や家畜疾病、アニマルウェルフェア等への対応
●気候変動等に対応した管理技術や飼料の生産技術の研究

研究体制における具体的な取組

研究体制の強化

3 効率的・効果的な研究体制の構築

- (1) 普及組織との連携強化
●フィールド試験の積極的な活用
- (2) マネジメント体制の構築
●国や大学、民間企業との共同研究の推進、研究者の育成
- (3) 現場に対応した試験研究に取り組むための環境整備
●分散している研究体制の再編、施設の再整備
(環境制御型畜舎、スマート畜産の実践、アニマルウェルフェアへの対応)

業務の充実

4 畜産農家等への支援業務の充実

- 生産者ニーズに合わせたサービスの提供
- 優良遺伝資源の供給
 - 研修会等の開催や研究員の派遣による畜産農家の技術向上
 - 畜舎整備を含めた受託体制の充実による育成牧場の利便性の向上

目標（畜産農家の姿）

稼げる畜産経営

- 収益性が高く、ゆとりある畜産経営
- コストを低減し、効率的・省力的な生産システム
- 輸入飼料価格に左右されない安定経営
- 美味しい畜産物の安定生産



千葉県におけるHPAI R7～8シーズン発生対応状況

1 例目（うずら）

	発生日	場所	飼養羽数	殺処分終了	防疫措置完了	備考
1	2026/1/27	旭市	約10.8万羽	2026/1/28	2025/01/29	農場防疫作業従事者の動員は民間事業者のみ

- ・ 通報時間が早く、午前中に民間事業者に動員依頼し、必要人数確保
 →防疫作業従事者：民間事業者60名体制（殺処分2班＋梱包運搬）
 →県職員の防疫作業従事者動員なし

2 例目（採卵鶏） ※育成農場が関連農場＝成鶏農場・育成農場の2農場殺処分

	発生日	場所	飼養羽数	殺処分終了	防疫措置完了	備考
2	2026/2/20	旭市	約8万羽 (関連農場含む)	2026/2/22	2025/02/24	関連農場：育成鶏

- ・ 2農場を同時殺処分のため、初動は民間事業者と県職員で必要人数確保
 →防疫作業従事者：民間事業者80名＋県職員20名体制（2農場の殺処分と梱包運搬）
 県職員動員は第4クールで終了

千葉県におけるHPAI R7～8シーズン発生対応状況

汚染物品の処理

	死体	卵	エサ	ふん・堆肥
1 例目	焼却	埋却	埋却	封じ込め
2 例目	焼却	焼却	埋却	封じ込め

消毒ポイント

消毒ポイント	
① 旭市役所海上庁舎	
② 旧東庄町病院跡地	1/27 7時から
③ 旭市ひかた市民センター	3/18 0時まで

- ・ 1例目発生時に消毒ポイント設置
- ・ 2/20の0時に閉鎖予定であったが、1例目の近くで2/19に疑い事例が発生したため継続
- ・ 2例目の防疫措置完了日（2/24）から21日経過後の終了



路面消毒

- ・ 発生農場を中心とした、移動制限区域内の主要道路を
 1日に1回散水車で次亜塩素酸ナトリウムで消毒
- ・ 1/28～2/20の予定であったが、2例目の発生を受けて3/17まで延長